

1. プログラム



平成 24・25 年度

「医療安全能力向上のための効果的教育・トレーニングプログラム開発事業」

International Forum on Quality & Safety in Healthcare 2012, Paris
Remote Participation Program
- Solutions for Tough Times -

国際医療の質・安全学会 2012 第 3 回 遠隔地参加プログラム
- 困難な時代のソリューション -

日時：2013 年 5 月 9 日 (木) 13:00 ~ 14:40

会場：日経ホール (東京都千代田区大手町 1-3-7)

国際医療の質・安全学会 2012 第 3 回遠隔地参加プログラムは、2010 年 (第 1 回)、2011 年 (第 2 回) にひきつづき、「医療におけるノンテクニカルスキル」をテーマに開催します。本年は、チームワーク、特にリーダーシップとフォロワーシップを取り上げます。カナダの救急医であり元 NASA (米国航空宇宙局) 宇宙飛行士のウィリアムズ氏による特別講演を中心に、元日本航空のグレートキャプテン小林宏之氏、及び国内の医療安全を牽引するリーダーのお一人である米井昭智氏を特別コメンテーターにお迎えし、リーダーシップやチームメンバーによるフォロワーシップの要素や教育方法等について、参加者の皆様と共に理解を深めたいと考えています。



Creating a Culture of Safety & Quality : Lessons from the Edge

安全と質の文化を創造する～宇宙からのレッスン

演者 : David R. Williams デイヴィッド・ウィリアムズ氏

Astronaut, Physician, President and CEO, Southlake Regional Health Centre, and
Assistant Professor of Surgery, University of Toronto

宇宙飛行士, 医師, サウスレイクヘルスセンター 総長兼最高経営責任者
トロント大学外科助教

1976 年にカナダ・マギル大学理学部 (生物学専攻) を卒業後、同大学において生物学士、医学博士、外科学修士を取得した後、家庭医学及び救急医学のトレーニングを経て救急医療に従事。

1992 年、5,330 人の応募者の中からカナダ宇宙機関の宇宙飛行士訓練候補生に選抜され、カナダにおける宇宙飛行シミュレーション・ミッションを経て、1995 年から 2008 年まで NASA 国際ミッションの宇宙飛行士として活躍した。宇宙輸送・居住適性の専門家として 2 回の宇宙ミッションを完遂し、17 時間 47 分の宇宙遊泳時間を含む、計 687 時間の宇宙滞在時間記録を有する。1988 年から 2002 年には NASA ジョンソン宇宙センター宇宙・生物科学センター長を務め、NASA における初の非アメリカ人管理職となった。

2008 年、カナダ・マクマスター大学系列のセント・ジョセフ・ハミルトン総合病院マクマスター医療ロボット工学センター長、及び同大学マイケル・G・ディジョージ医学学校の外科学教授に着任し、2010 年からは同病院医療安全管理部長を併任、2011 年から現職。

※講演はビデオ映像による紹介となります
(日本語訳あり)

BMJ Group